

⑦ 東京大学千葉演習林浅間山コース 南房総の豊かな自然と歴史ある大学演習林

【概要】房総半島南部の清澄山系に明治 27 (1894) 年、我が国で最初に設置された大学演習林。気候は温暖で多雨、暖温帯林に属し長年にわたって保護された豊かな植物相が見られる。2,200ha の広大な敷地で、40%がスギ・ヒノキの人工林、60%がモミ・ツガやシイ・カシなどの天然林である。林内には主要林道が 4 本通り、林道を結ぶ多くの歩道が整備されている。見学には目的に応じ種々のルートが選択できる。入林には許可が必要。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

東京大学千葉演習林は我が国初の大学演習林として、森林に関する教育と研究を目的とし 1894 (明治 27) 年に創立された。

房総半島の東南部、房総丘陵の東端に位置し、気候は温暖で多雨、暖温帯林に属す。モミ・ツガを主体とする針葉樹天然林、スダジイ・カシ類などからなる広葉樹天然林、スギ・ヒノキを主体とする人工林の 3 つが大部分を占めている。

人工林は幼齡林から超高齡林に至る幅広い林齡が存在し、齡級構成が整備されている為、人工林研究・教育の代表的なフィールドとなっている。演習林の自生植物種は木本類が約 280 種、草本類が約 800 種 (うちシダ植物約 150 種) に達する。<地況>東西に横断する主稜線により、南側が太平洋に注ぐ二日間川の流域、北側が東京湾に注ぐ小櫃川の流域に分かれている。標高は 50m から 370m で地形は急峻かつ複雑。

<地質>新第三紀海成層をを基盤とし、第四期非海成層に部分的に覆われている。基岩は砂岩、礫岩、泥岩、凝灰岩からなっている。

演習林内には複数の林道と多数の歩道があるが、風水害による倒木や崩落が多く危険な場所が多いので注意が必要です。歩行前には通路状況を確認する必要があります。入林には演習林の許可が必要です。

東京大学千葉演習林 TEL : 04-7094-0621

<荒樫モミ・ツガ天然林>

千葉演習林には、モミ・ツガを上木とし、下層に常緑広葉樹を持つこの地域固有の針葉樹天然林が 387ha 存在しています。荒樫沢のモミ・ツガ天然林はその一部で 1897 (明治 30) 年に演習林に移管されてからは全面禁伐の天然林として保護され

ています。本来はもっと標高の高い場所に分布する樹木ですがここでは標高 300m 程の処に生育しており、寒冷期の遺存種として貴重な存在となっています。このような現象を垂直分布の寸詰まり現象と呼んでいます。

<広葉樹天然林 (二次林) >

過去において広葉樹二次林は、薪炭林として比較的短期間 (約 20~30 年周期) で伐採が繰り返し行われていました。薪炭林は農用林 (里山) などとして歴史的に 長い間、人間の生活との密接な関係の中で維持・管理されてきました。

千葉演習林でもこのような広葉樹二次林は約 949 ha 存在しますが、荒樫沢 B2 小班は 1897 年に演習林に移管されてからは禁伐の天然林として保護されています。これらの森林の維持・管理・更新問題を、野生生物の管理と関連付けながら研究を進めています。

<今澄スギ高齡人工林>

今澄スギ高齡人工林は 1856 (安政 6) 年に植栽された高齡林 (現在 160 年生) が、比較的平坦地にあり 170 本程が生育しています。古くから清澄地域集落の貴重な水源涵養林として被害木以外の伐採を規制するなど管理・育成されてきました。現在でも貴重な学術参考林として定期的に樹高と直径の計測を続けています。数メートル上側には川越藩の番所跡があり、林道の先には植生回復調査のための試験地があります。

<浅間山>

浅間山は千葉演習林発祥の地。この地が未だ演習林になっていなかった 1892 (明治 25) 年、本多静六博士が学生を率い鹿野山から奥山を経てこの地を訪れた。その際、房総半島特有の林相を原生状態で保っている浅間山や周辺に見られる高齡のスギ林に注目し、林学の演習上、極めて適当な場所であると考え、この地への演習林設置を推進し、

1894 (明治 27) 年に我が国最初の大学演習林として千葉演習林が創設されました。

1926 (大正 15) 年刊行の造林実習日誌によると「森林植物帯研究上の暖帯林好個の標本であり、当地方の林相を保ち、暖帯の常緑広葉樹林帯分布上の典型をなす標本」と記されています。

古来より浅間山は地域住民の信仰対象として保護され、人為が加えられる事が無かったと伝えられており、演習林に編入されてからも禁伐林とされ、現在では「国定公園第一種特別地域」として保護、保存され、房総半島南部の原生的な森林の特徴を留めています。

【コースの紹介】

●清澄寺市営駐車場へのアクセス

JR 安房天津駅から鴨川市コミュニティバス「清澄ルート」に乗車「東大演習林」or「市営駐車場前」下車

●ルート：添付行程図参照

清澄寺市営駐車場を出発点とし、郷台林道、荒檜のモミ・ツガ天然林を遠望し、浅間山山頂を経て一杯水林道に出、市営駐車場に帰るルートです。3～4時間のコースです。

清澄寺市営駐車場→郷台林道入口清澄ゲート→郷台林道、広葉樹天然林→荒檜（北側のモミ・ツガ天然林、南側の嶺岡丘陵を望む）→ここで引き返し仁ノ沢歩道→今澄スギ高齢人工林→小櫃川源流十面沢→浅間山原生林を通り浅間山へ→浅間山を下り（右に妙見山 377m）を見ながら中ノ背歩道に行く（途中岩肌の露出した滑りやすい下りの道が有り注意）→川越藩領石碑→長尾・真根坂歩道分岐を長尾歩道に入る（急峻な斜面が有るので注意）→川越藩番所跡を通り→一杯水林道に出る→清澄寺方向（南側）へ歩く→一杯水林道清澄ゲートを出て清澄寺門前を通り清澄寺市営駐車場着

浅間山の植生

カシ・シイ・タブの類を主体とし、アセビ・シキミ・サカキ・ヒサカキ・などの下木を有し峰通りにはモミ・ツガの大径木を交え、溪谷に沿う所には、モミジ・ケヤキ・イイギリなどの落葉広葉樹も見られる。



郷台林道入口清澄ゲート



郷台林道広葉樹天然林



荒檜モミ・ツガ天然林



荒樫から南側嶺岡丘陵を望む



中ノ背歩道



小櫃川の源流 十面沢の溪流



一杯水林道から勝浦方面を望む



浅間山山頂



一杯水林道清澄ゲート